

新しい文化財が仲間入り～令和5年度国指定等文化財～

文化財課

令和5年度国指定等文化財

令和5年度は、新たに国指定等文化財として2件が指定、登録されましたので紹介します。

重要無形民俗文化財（令和6年3月指定）

川内大綱引（薩摩川内市）

川内大綱引は、薩摩川内市に伝承される大規模な綱引き行事で、平成18年4月21日に県の無形民俗文化財に指定されており、稲藁を編んだ長大な綱を、上半身裸の男性たちが上方と下方に分かれて勇壮に引き合います。

行事は、綱練と呼ばれる綱の製作と本綱と呼ばれる本番の綱引きから主に構成されており、綱練は、行事当日の早朝から、多くの市民や市内の団体などが参加して行われ、半日掛かりで大きな綱を練り上げます。綱の形態は、一本綱で両端にワサと呼ばれる大きな輪が付くのが特徴です。



本綱は、行事当日の夜、市の中心市街地を通る国道3号の路上を会場として行われます。上方と下方の両陣営ともに、一番太鼓や大将、押大将などの指揮のもと、太鼓隊や引隊、押隊などの集団が連携して動き、攻防を繰り返しながら綱を引き合います。



提供：薩摩川内市教育委員会

登録無形民俗文化財（令和6年3月登録）

薩南諸島の黒糖製造技術（鹿児島県）

鹿児島県から沖縄県にかけての南西諸島は、黒糖の生産地として知られ、なかでも南西諸島の北半分にあたる薩南諸島（種子島から与論島）では、黒糖の伝統的な製造技術を今に伝えています。

黒糖の製造は、サトウキビを原材料とし、砂糖小屋と呼ばれる共同作業場で、11月から3月にかけて行われます。このような製造技術は、地域的特色が顕著であり、その製造工程には、昔ながらの手作業による熟練の技術伝承が見られます。薩南諸島における産業や、我が国の製糖技術の変遷を考える上で注目されています。



【黒糖の製造作業】



【黒糖の切り分け】

提供：西之表市教育委員会